

# 大阪音楽大学短期大学部卒業生アンケート集計結果

## 謝 辞

大阪音楽大学短期大学部ではこの度、1994、1999、2004 年度の 3 ヶ年度に卒業された方を対象とした卒業生対象のアンケートを行いました。卒業生の視点から本学の教育目標が達成できているかどうかを回答いただきました。このアンケートで得られたこれら貴重なご意見を参考にさせていただきながら、教育改革、サービス向上など本学の今後の教育活動の発展に資するよう活用したいと思い、アンケート結果の概要をここに公開します。

回答期間が夏期休暇を含む時期であり、また本学にとりましても卒業生を対象として教育に関わるアンケートを行うことは今回が初めての試みでありましたが、多くの方から回答を得ることができました。回答いただきました卒業生の方々に御礼申し上げますとともに今後ともご協力をお願いいたします。

## アンケート実施方法

1994 年度、1999 年度、2004 年度の大阪音楽大学短期大学部卒業生（総数 1,458 名）のうち幸楽会名簿において住所不明と記載された方を除く計 1,359 名に対してアンケート用紙（B4 表裏 2 面）を送付しました。

## 回収状況

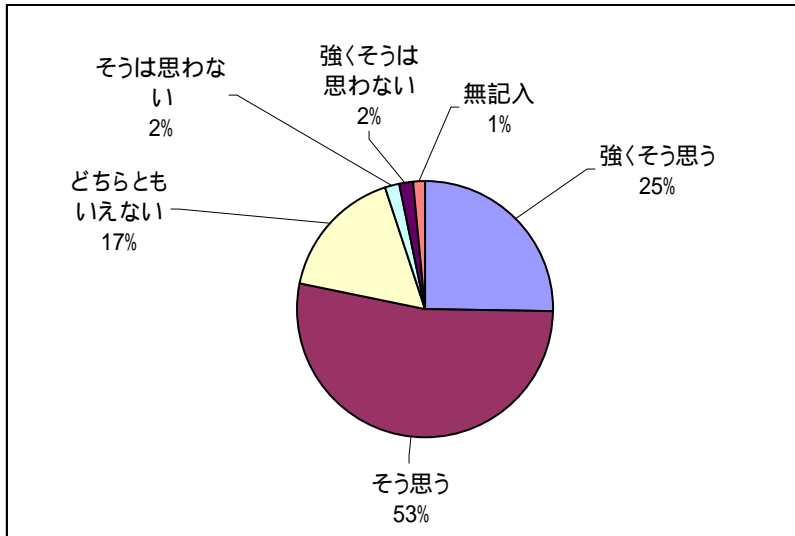
全体の回収数は 305 件、22.4%でした。年度別では卒業後 10 年を経た 1994 年度卒業生からの回答が最も多く、2004 年度卒業生からの回答は 18.39%でした。

## 集計結果の記載方法

今回のアンケート集計では専攻別など対象となる数に著しい偏りがある場合を考慮し、実数による提示でなく、それぞれの項目について相対的な傾向を俯瞰できるように円グラフや横棒グラフを多く用いています。

## ．総合的満足度

図表 1 ．総合的満足度



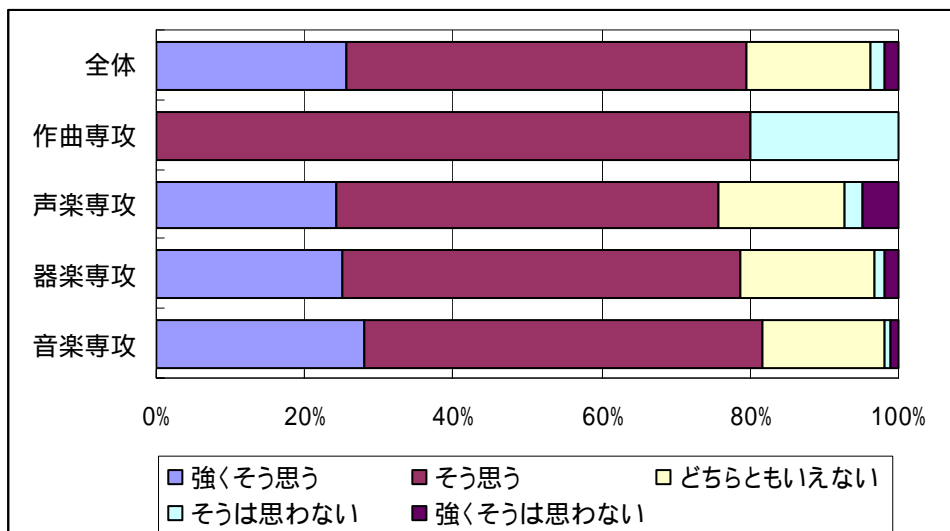
全体的満足度について図表 1 ．のようになりました。78%の人が「満足した」(「強くそう思う」+「そう思う」)としています。それぞれの設問について1～5までの点数に換算し、それぞれの人数を乗じたものの合計から無記入分を除いた実数で割ったものを平均とし点数化すると以下ようになります。

図表 2 ．満足度得点換算

| 選択肢       | 人数  | 換算   | 平均   |
|-----------|-----|------|------|
| 強くそう思う    | 77  | 385  | 3.99 |
| そう思う      | 162 | 648  |      |
| どちらともいえない | 51  | 153  |      |
| そうは思わない   | 5   | 10   |      |
| 強くそうは思わない | 6   | 6    |      |
|           | 301 | 1202 |      |

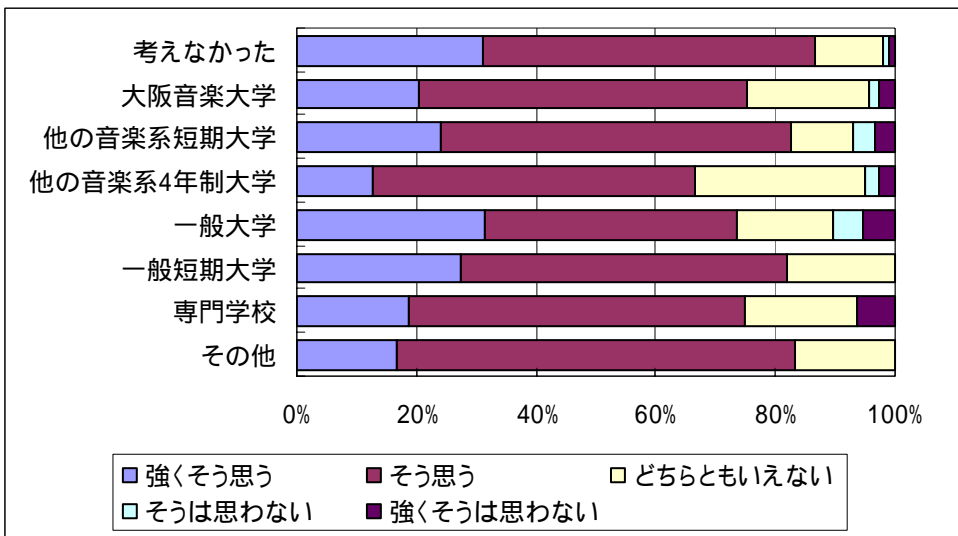
専攻別で見た平均値ではそれぞれ作曲専攻：3.60 声楽専攻：3.88、器楽専攻：3.99、音楽専攻：4.07 となり、音楽専攻が最も高い満足度を得ています。

図表 3 ．専攻から見た満足度



この満足度を入学時の志望別に見ると以下ようになります。

図表 4 . 受験時の志望先から見た満足度



「考えなかった」——“ 専願 ”であった人には最も高い満足度を与えと言え、“ 専願 ”で志望した学生では高くなっています。

また、「他の音楽系短期大学」や「一般短期大学」、「その他」の進路も考えていたと言う人にも高い満足度を示しています。満足度が低かったのは「他の音楽系 4 年制大学」と回答した人です。この人たちからは特に「どちらともいえない」という回答が他に比べて多くなっているのも特徴です。

この他、興味深いのは「一般大学」、つまり音楽系以外の 4 年制大学と併せて志望した人からは、「強くそう思う」が専願の人と並ぶほどの支持を得ていることです。これは、“好きな”分野についての教育を受ける事にメリットを感じた人の満足度が高かったことを表しています。

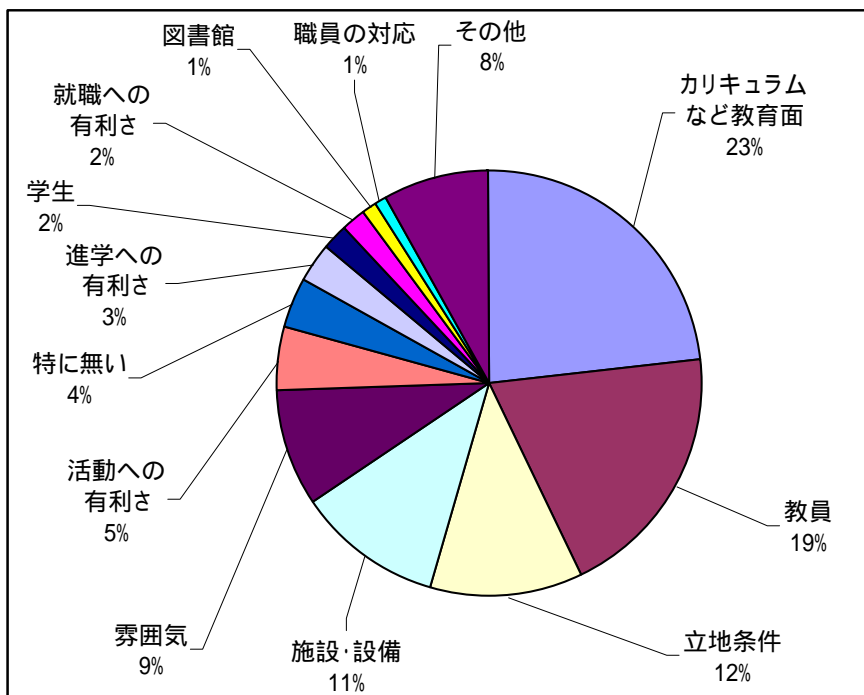
## ．入学前の印象・意識

### 本学の選択理由・目的

本学を選択した理由としては下表にあるように「カリキュラム」を重要視した人が多いことが判ります。また「教員」が2番目に多くなっています。これに比べると「活動への有利さ」、「進学への有利さ」や「就職への有利さ」をその理由として挙げた人が少ないのは、在学中の学習に重きを置いていることの反映でしょうか。このほか阪急沿線に所在する本学の「立地条件」が主要な選択理由の一つとなっています。

その他の自由記述による回答では高等学校等の教員や受験時に指導した講師、および周囲にいる大阪音楽大学卒の知人などの推薦、次いで本学が音楽系の専門短期大学であることなどが挙げられています。

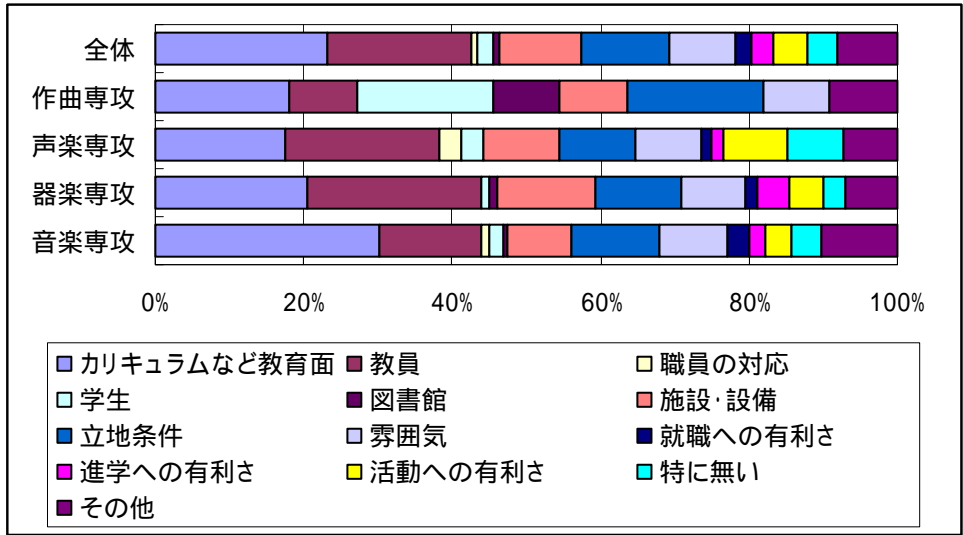
図表5．本学の選択目的・理由



### 専攻別に見た選択理由

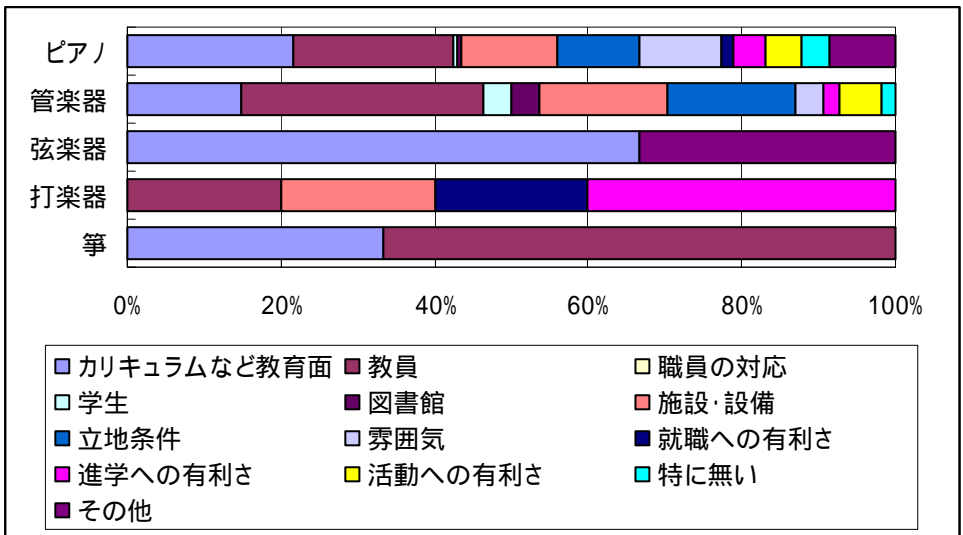
専攻別に選択理由を見ると、作曲専攻と音楽専攻は「カリキュラムなど教育面」が多く、器楽専攻、声楽専攻ではどちらかといえば「教員」が重視されています。入学者の興味が専攻の違いとして出ていると思われます。「カリキュラムなど教育面」と「教員」を合わせると器楽専攻と音楽専攻では40%強が本学の“教育”を重視しており、全体的な傾向と似ています。「就職」や「進学」は比較的少数です。

図表6．専攻別に見た本学の選択理由



次に器楽専攻について詳しく見るとピアノは「カリキュラムなど教育面」と「教員」がほぼ同じ割合で重視され、管打では「教員」、弦楽器では「カリキュラムなど教育面」が重視されています。

図表7．本学の選択理由（器楽専攻詳細）



### 入学時に大阪音楽大学短期大学部以外に考えていた進路

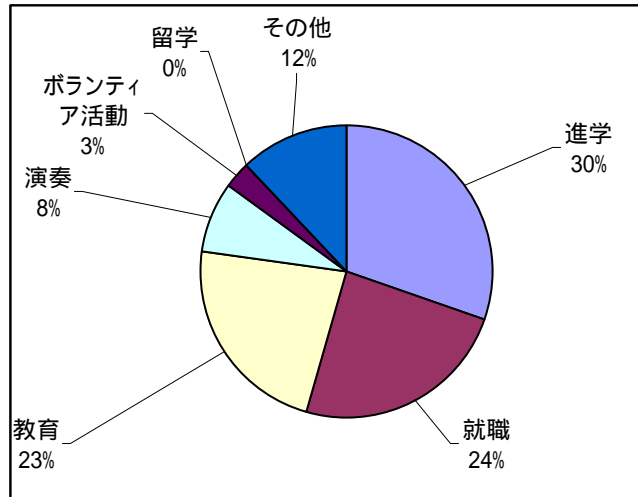
入学時に本学以外に考えていた進路を見ると、「考えなかった」すなわち本学への進学のみを考えていた人が30%となりました。このほか「他の音楽系および一般短期大学」、「他の音楽系および一般大学」、「専門学校」、「その他」がありました。

## ．卒業後の進路

### 卒業後の進路

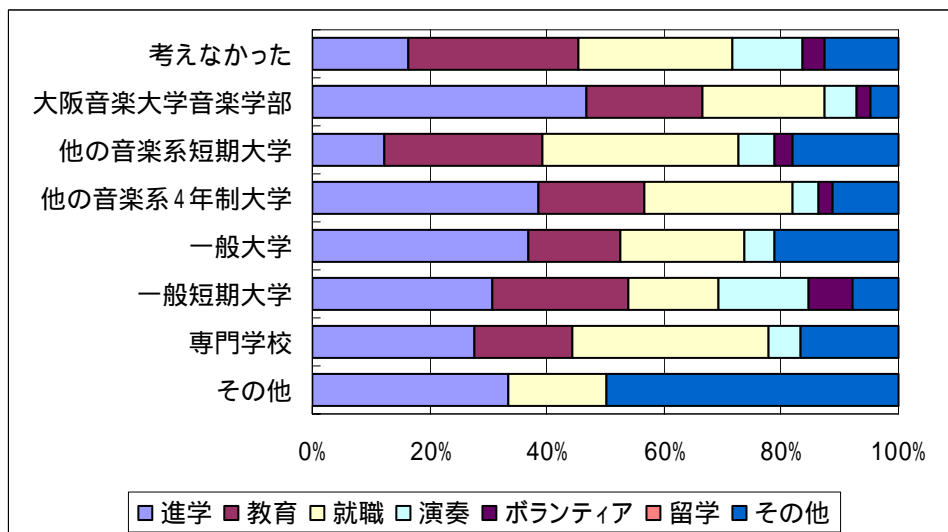
本学の卒業後の進路としては「進学」が最も大きな部分を占めています。次いで広い意味での音楽指導者としての道を選択する人が多くなっています。「進学」、「教育」、「演奏」を加えると62%の卒業生が本学卒業後も音楽に携わっている事が判ります。その一方で「教育」と「就職」の合計は47%となっています。その他の中には「アルバイト」などの回答が多くありました。

図表 8 . 卒業後の進路



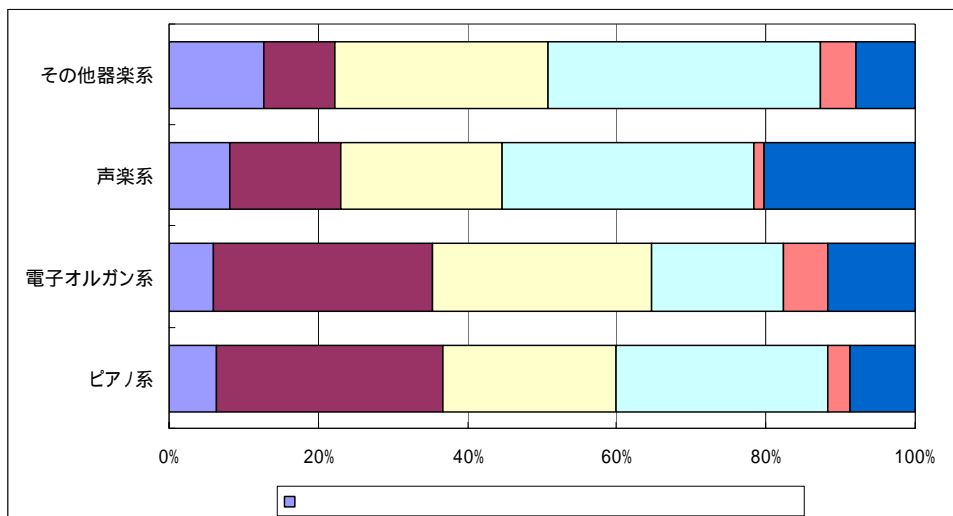
次に入学前に考えていた志望先(設問6.)別に卒業後の進路を見てみると、本学以外を「考えなかった」人と「他の音楽系短期大学」を考えていた、いわゆる“2年制志向”の人は、卒業後直ちに教育活動や就職といった道に進み、「大阪音楽大学音楽学部」、「他の音楽系4年制大学」、「一般大学」といった当初からいわゆる“4年制志向”であった人は本学卒業後にさらに勉学を継続する傾向が有意に見られます。また、「他の音楽系短期大学」や「専門学校」を併せて考えていた人はそのほかと比べて、一般的な就職を選ぶ例がもっとも多い傾向を示しています。

図表 9 . 入学前の志望別進路



これを専門分野別に見てみると ピアノや電子オルガンでは「教育（指導者）」に進む人が最も多いことが判ります。

図表 10 . 専攻分野から見た卒業後の進路

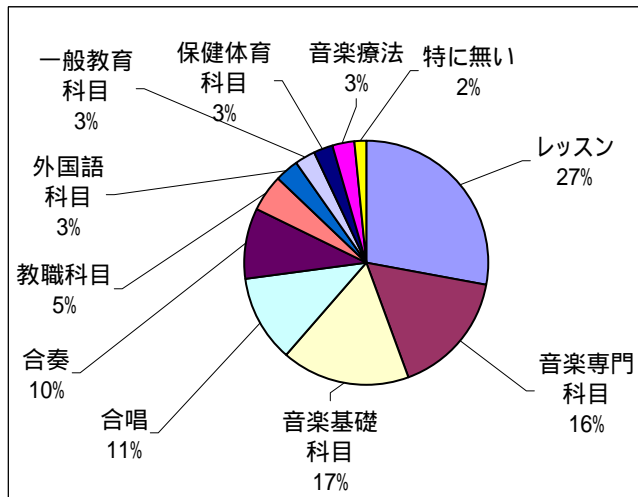


## ．科目の意義

### 既習科目の中で特に有意義と感じた科目

在学中に履修した科目について卒業生が感じ有用性（有意義性）の回答結果が図表 1 1 . です。これを見ると「レッスン」が有意義であったという意見が最も多く、回答者全員の 75% を超えています。次に「音楽専門科目」、「音楽基礎科目」と続くように、音楽に関して自身の専門分野および基礎的学習において半数近くの卒業生が有意義であったと回答しています。「一般教育」、「外国語」など一般的教養科目について有意義とした回答は 1 割に満たない結果となりました。

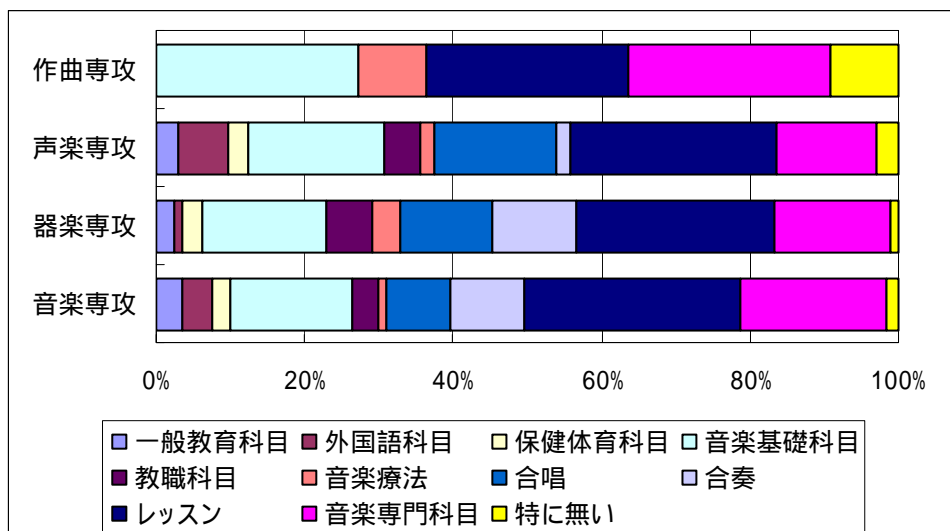
図表 1 1 . 既習科目の中で特に有意義と感じた科目



### 専攻別に見た有意義科目

次に専攻別に有意義とした科目の割合を見ると、「外国語」は特に声楽専攻において評価が他より高くなっています。声楽専攻における「合唱」、器楽専攻における「合奏」、音楽専攻における「合唱」、「合奏」は“アンサンブル”への関心が高いことが分かります。作曲専攻においては「音楽専門科目」が「レッスン」と等しい回答を得ています。また、「音楽基礎科目」については各専攻ともその支持割合は大きな違いが無く、いずれも専門（「レッスン」や「音楽専門科目」）に次いで有意義な科目であったと回答しています。

図表 1 2 . 専攻別に見た有意義科目



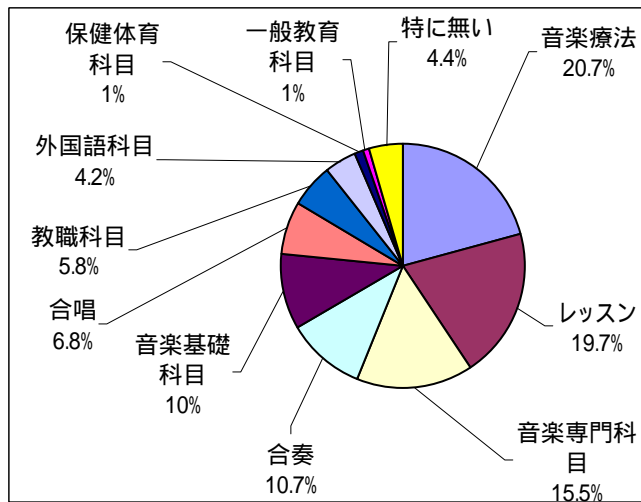


## 再び短大で学びたい科目

卒業直後あるいは数年たったそれぞれの時点で再び本学において学ぶとすれば何を学びたいかの問いでは図表13.のように「音楽療法」が最も多数でした。設問12.の有意義であった科目として2004年度卒では「音楽療法」が他の2ヵ年度と比べて大きく増加していますが、音楽の実用分野としての音楽療法への高い関心は音楽系短期大学共通の傾向でもあるようにも思われます。

ここでも有意義であったと思われる科目と同傾向と言える結果が現れています。実社会に出た卒業生にとってはその活動の中で一般的な教養を必要と感じることが多いと予測されましたが、現在のところ専門の音楽に関連するものを強く求めている傾向が明確に表れています。

図表13. 再び短大で学びたい科目



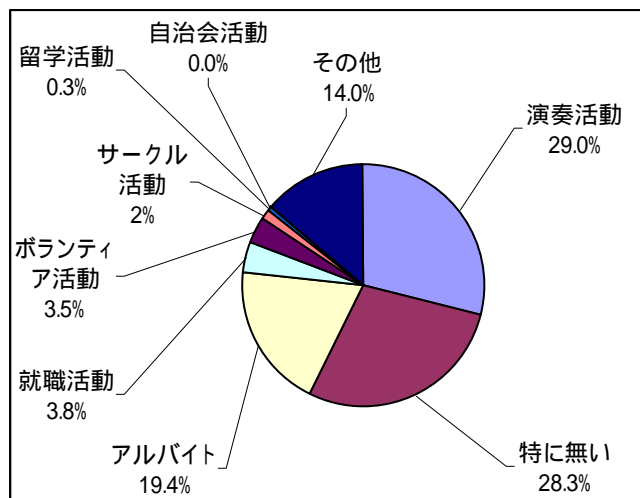
## . 学生生活

### 最も力を注いだ活動

学生時代に最も力を注いだ活動内容については、「演奏活動」が最も多く、次いで「特に無い」「アルバイト」が上位を占めています。今回のアンケートでは、敢えて「勉学」「自学自習」などを省いた形で調査を行いました。その他の記述中には「練習」や「勉学」といったものが多くありました。

この中で「自治会活動」「サークル活動」が極めて少ないという特徴が表れています。

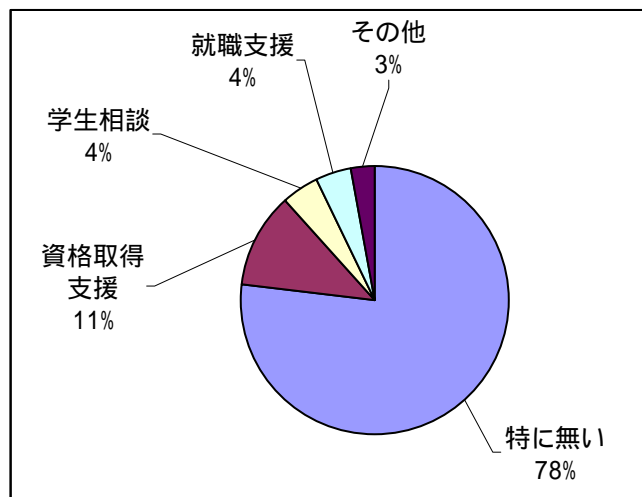
図表14. 在学中に最も力を注いだ活動



## 学生サービス

本学が行う種々の学生サービスについては図表15の通り、ほとんどの学生にとって有意義と受け取られているとは言えない結果となりました。このことについては本学に対する卒業生からのメッセージや設問23における本学に期待することでも明確にその傾向が出おり、今後この結果を参考にすべきでしょう。

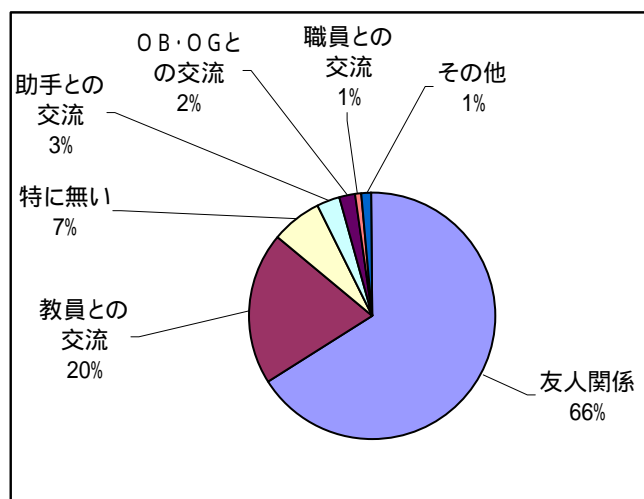
図表15．学生サービスの有用性



## 対人関係

対人関係についてもっとも有意義であったというのは「友人関係」となりました。この傾向は、総合的な印象でも触れている現在に役立っている事柄として「大学で得た友人や人脈」が2番目に多くの回答を得たことにも表れています。

図表16．対人関係の有用性

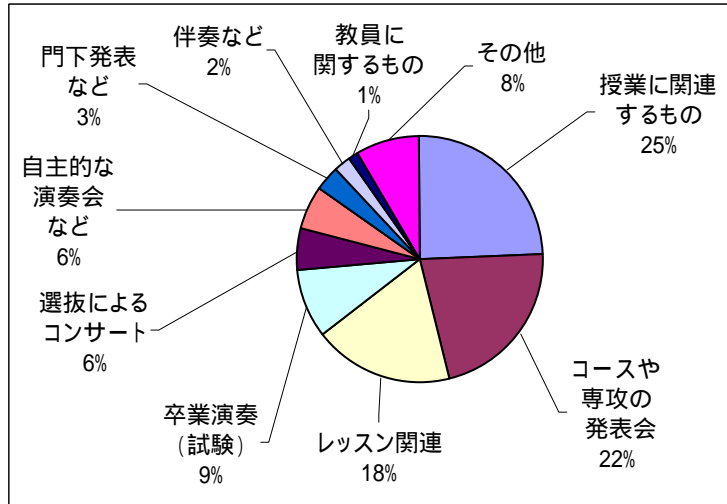


## ．卒業後の印象

### 印象に残った専門実技に関する科目や活動

最も多い回答は「授業に関連するもの」でしたが、それぞれのコースや専攻独自の発表会や専門のレッスンについて肯定的な印象が強く残っていることが判りました。

図表 1 7 . 印象に残った専門実技に関する科目や活動（概要）



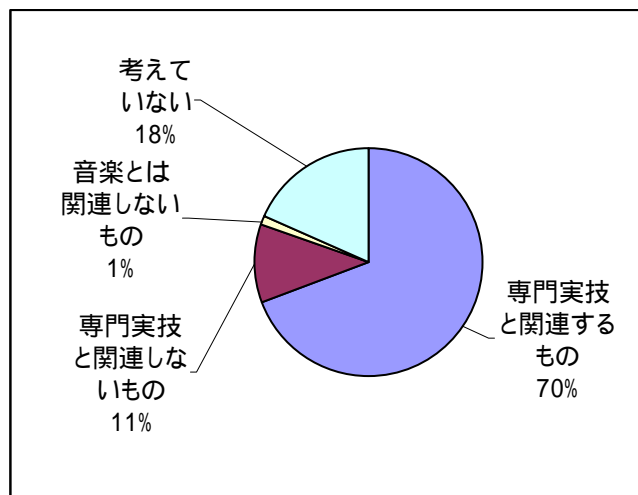
### 在学中に学ぶ機会がもっとあれば良かったと思う科目等

専門的な科目についてのカリキュラム内容や履修システム上の課題が多くでてきました。また、ここでも設問 1 3 . と同様に音楽療法についての記述が多くありました。

### 将来の展望

本学の卒業生は、今後変更または継続していく進路として在学中に学んだ専門実技に関するものを目指す傾向が明確に表れています。具体的な例としては教師や講師といった指導者を志望する人が多く、次いで演奏家として身を立てたいとする人が多くいます。

図表 1 8 . 将来の進路

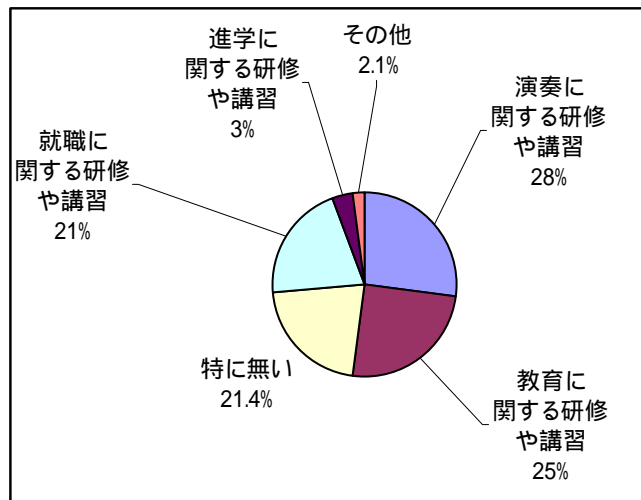


## 大阪音楽大学短期大学部への希望

設問 19 に関連して、卒業生が将来大学に希望するものについて調査したところ、「演奏に関する研修や講習」、「教育に関する研修や講習」、「就職に関する研修や講習」がそれぞれ 28%、27%、22%となっており 80%弱の卒業生が将来の社会活動に対して本学からの支援を求めていることがわかりました。「進学に関する研修や講習」が最も低い値となっていますが、これは短大在学中に進学を希望した人は既にその道をたどっているという結果の反映であると思われます。

入学時には少数にとどまった「就職」( . 入学前の印象・意識 ) についても卒業後に支援を求めていることは、社会に出てみると一層実効力のある技術や知識を求めて、改めて必要性を痛感したことが表れています。

図表 1 9 . 将来の展望に関して大阪音楽大学短期大学部への希望



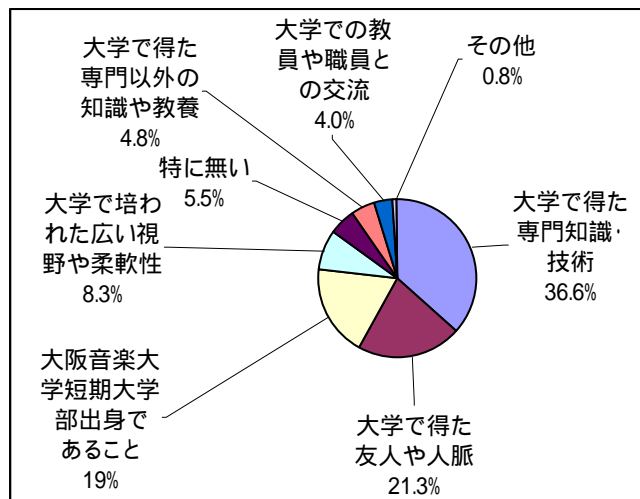
このほか具体的な記述としては「情報提供」、「よい人材募集を手伝ってもらいたい」、「海外講習 or 大学での音楽祭」、「演奏会ホールの貸し出し斡旋」、「レベルを証明できる資格制度」、「紹介と推薦」、「音楽関係の職安的なもの」などの要望があり、自分の専門分野やその他音楽活動に直結するものなど支援を望む声がありました。

## ．総合的な印象

### 本学で学んだ意義

本学に在学した事が有意義であったかという問いに対しては、「大学で得た専門知識や技術」を挙げた人が最も多く、50%弱の卒業生が本学における専門教育が有意義であったとしています。それに対して「大阪音楽大学短期大学部出身であること」は回答者全体の1/4に留まりました。また、専門教育が有意義であったという意見と比べると「大学で培われた広い視野や柔軟性」「専門以外の知識や教養」は合わせて17%となりました。また、突出はしていないものの「大学で得た友人や人脈」は音楽活動において重要な財産となっていることもわかります。設問12において「合奏」や「合唱」が有意義であったとする回答の合計が半数を超えるように、「個人」レッスンを大きく支持する一方で“アンサンブル”も重視しています。卒業後の活動においても本学で得た友人などとの人的連携にメリットを感じ共同して活動しようとしていることがわかります。

図表20．本学で学んだ意義



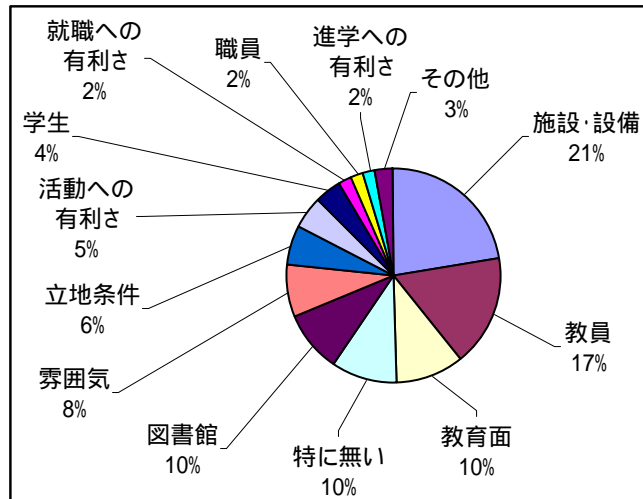
### 本学が特に優れていると思ったこと

社会に出た後、他学の出身者などとの交流の中で本学が優位であると感じるものについて質問をしました。ここで最も多くの回答を得たのは「施設・設備」でした。

本学が有する「ザ・カレッジ・オペラハウス」や「ミレニアムホール」をはじめ、学外に出るとほぼ全ての教室にピアノが設置されていることや練習室の多さと施設を利用できるその便利さ、また「図書館」において普通には入手しにくくものであったり、高価なものであったりするものも多い楽譜や専門書などが利用できたことなどが、本学在学生の大きなメリットとなっていたことを表していると思われます。また、「教員」という回答が「その他」以外では最大でした。設問21では「大学で得た友人や人脈」が良かったとしているものが28%あるにもかかわらず、ここで「学生」を挙げた回答は7%でした。

また、ここでも「就職の有利さ」は少数で、これについては他の設問と同傾向でした。また、「進学への有利さ」は進学志望者に限られるテーマであることを示しています。

図表 2 1 . 本学が特に優れていると思ったところ



設問 5 と設問 22 の比較

入学前の期待と卒業後の感想を比較した設問です。参考として設問 23 . の割合を併記しましたが、入学前に最も期待されていた「カリキュラムなど教育面」は最も減少（ 20.3 ポイント）しています。また、入学前や在学中は就職することを考えなかったが卒業して初めてその必要性に気づくなど、本学に対して社会に対する有益な専門的教育や専門外の一般教養の提供を求め、職場の開拓や紹介、正規科目以外の資格取得などの支援を求めていることがわかりました。

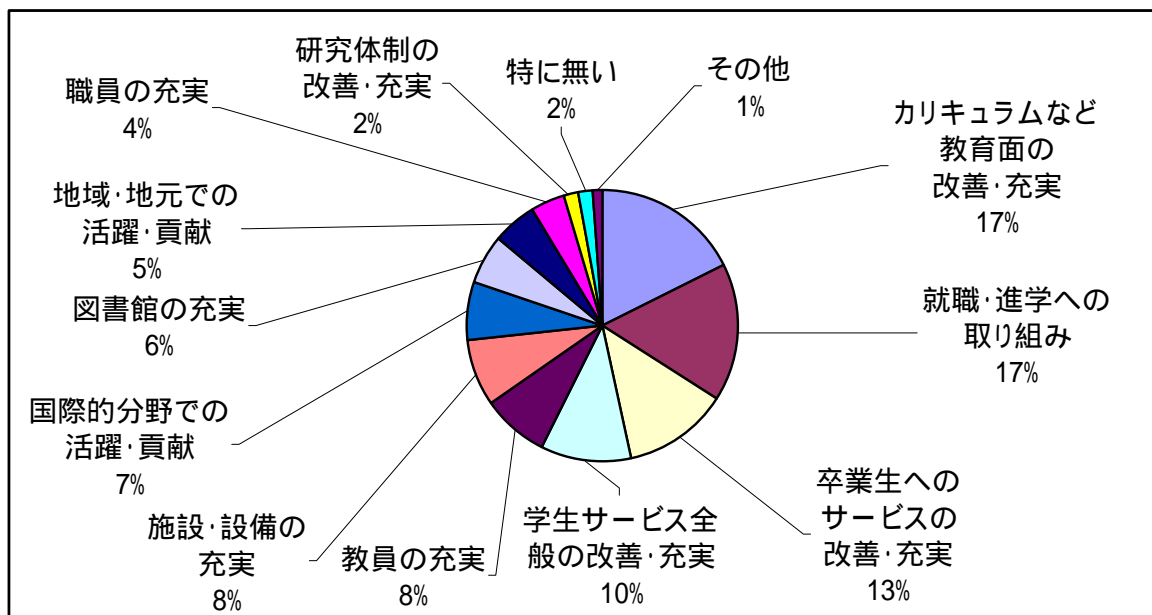
図表 2 2 . 設問 5、2 2、2 3 の比較

|             | 設問 5  | 設問 2 2 | 比較(ポイント) | 設問 2 3 |
|-------------|-------|--------|----------|--------|
| カリキュラムなど教育面 | 39.3% | 19.0%  | -20.3    | 48.2%  |
| 教員          | 32.8% | 30.2%  | -2.6     | 22.3%  |
| 職員の対応       | 1.3%  | 3.3%   | 2.0      | 10.8%  |
| 学生          | 3.3%  | 7.2%   | 3.9      | -      |
| 図書館         | 1.6%  | 17.4%  | 15.7     | 16.7%  |
| 施設・設備       | 18.7% | 41.0%  | 22.3     | 22.3%  |
| 立地条件        | 20.0% | 11.5%  | -8.5     | -      |
| 雰囲気         | 15.1% | 13.8%  | -1.3     | -      |
| 就職への有利さ     | 3.3%  | 3.9%   | 0.7      | 45.2%  |
| 進学への有利さ     | 5.2%  | 3.0%   | -2.3     |        |
| 活動への有利さ     | 7.9%  | 9.2%   | 1.3      | -      |
| 特に無い        | 6.6%  | 17.7%  | 11.1     | 4.6%   |
| その他         | 13.8% | 5.2%   | -8.5     | 3.3%   |

## 本学の改善・充実への期待

卒業生の期待として最も大きなものは「カリキュラムなど教育面」のさらなる充実と改善でした。これは先述した設問5.と設問22.の比較でも明らかになったように入学前の期待に比べて実際は不足を感じるものであったことを表しています。本学の卒業生は卒業後何らかの活動を行いたいと思ったときに短期大学在学中に専門、教養等を問わず社会で通用するスキルを身につけるべきであったと感じていると推察できます。

図表23. 本学の改善・充実への期待



## ．具体的記述の例

### a. 設問 17 . 専門実技に関して印象に残った科目や活動について

- レッスン
- 卒業演奏会、卒業試験、卒業コンサート、卒業公演
- 演奏旅行
- オーケストラ、吹奏楽の演奏会
- 自主コンサート、自主演奏会
- ジュニア・カレッジ・アンサンブルコンサート、ジュニア・カレッジ・ソロコンサート
- 履修登録システムについて

### b. 設問 18 . 在学中にこのようなことを学ぶ機会がもっとあれば良かったと思うこと

- 音楽指導の実践的な技術・指導法
- 音楽療法、音楽セラピー
- 文化と音楽の関わりや専攻以外の音楽について
- 演奏以外で卒業してから役立つ科目。
- 音楽企業、業界など音楽関係の就職活動についての支援
- 卒業後の進路について考える機会や就職支援

### c. 設問 19 . 音楽に関連する職業に就職あるいは転職したいとする希望

- 楽器の指導、教師（自宅・音楽教室）
- リトミックの指導
- チャリティーコンサート
- 音楽療法士
- 音楽関係の仕事